

## 右の図3を見て、調べてみました

### 教育施設が立地していて、多くは現在につながっています

・体操学校（現在の日本体育大学）、都立（地図記載のまま）第十一高女（昭和16年に府立桜町高等女学校、昭和23年に都立桜町高等学校）、府立園芸学校（現在の都立園芸高等学校）があります。幼稚園は、現在の日体幼稚園（昭和30年に前身の日本体育会あさひ幼稚園開園）の位置にあったひなづる幼稚園です\*3。正和女子商業校の詳細は不明です\*4。「戦後、等々力の東横学園に変わったと聞いている。」\*5

### 名無しの大規模建物①は、陸軍衛生材料廠

・陸軍の衛生材料（薬品など）、獣医材料及び蹄鉄を扱った施設で、昭和4年に白金台町から移転してきました。昭和7年には蹄鉄工場が建てられたほか、鉄筋コンクリート造4階建ての倉庫があり、現在も3棟残っています\*6。昭和15年に獣医材料及び蹄鉄は扱わなくなりました。現在は、陸上自衛隊駐屯地、駒澤大学高校が立地しています。平成30年に川崎に移転するまでは、国立医薬品食品衛生研究所がありました。現在、跡地の利用が検討されています。

### 工場・製作所が多いのは？

・大山街道（新道）や大山街道（旧道）の沿道をはじめ、工場と思われる名称が多く見られます。陸軍衛生材料廠だけでなく、当時の世田谷区内には多くの軍施設があり、関連する工場等が立地したのでしょうか。現在、桜新町駅北側に準工業地域の指定があるのはこのような歴史を反映しています。

- ・「桜町高女から勤労働員で工場で働いた。工場が近くてよかった。」\*7
- ・「新町四丁目」表示の近くにある田邊楽器製作所は「陸軍のラップを作っていたと聞いている。」\*8
- ・「陸軍のハモニカを作っていた。」\*8

### 鍋島邸、後に隣に東条邸

・小城鍋島家の鍋島直庸子爵の邸。昭和13年に鍋島福子が用賀から嫁いだ記録があるそうです\*9。

・この図の測量後の昭和15年に移転してきた東条英機邸が隣にありました。

・「鍋島邸が立派だったので、米軍はそっちを狙って焼夷弾（注：火災を起こすことを狙った爆弾）を落とした。（桜町高女から）駆り出されてバケツリレーで東条邸の消火に当たった。」\*7

### 玉川全円耕地整理事業\*2の保留地\*2

・馬事公苑（昭和15年開催予定だったオリンピック馬術競技の会場予定地）、第十一高女、鍋島邸、東条邸はいずれも玉川全円耕地整理事業の保留地だったそうです。

### 農園、温室、養鶏場のほか、養豚場、屠場もありました

・「水が不便なので、農作は盛んでなかった。養鶏所が多いのは、軍施設とそれとともない増加した人口を対象に卵などを供給したのだろう。」\*5

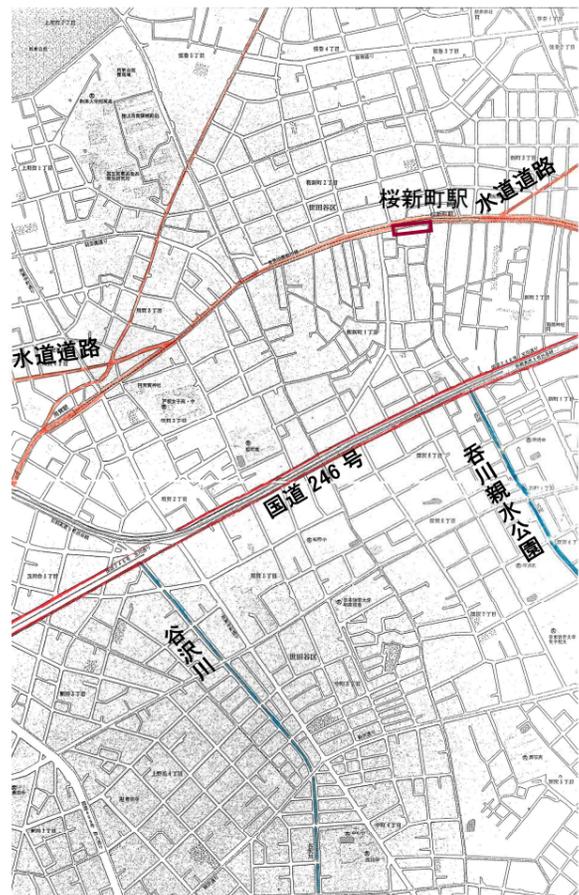
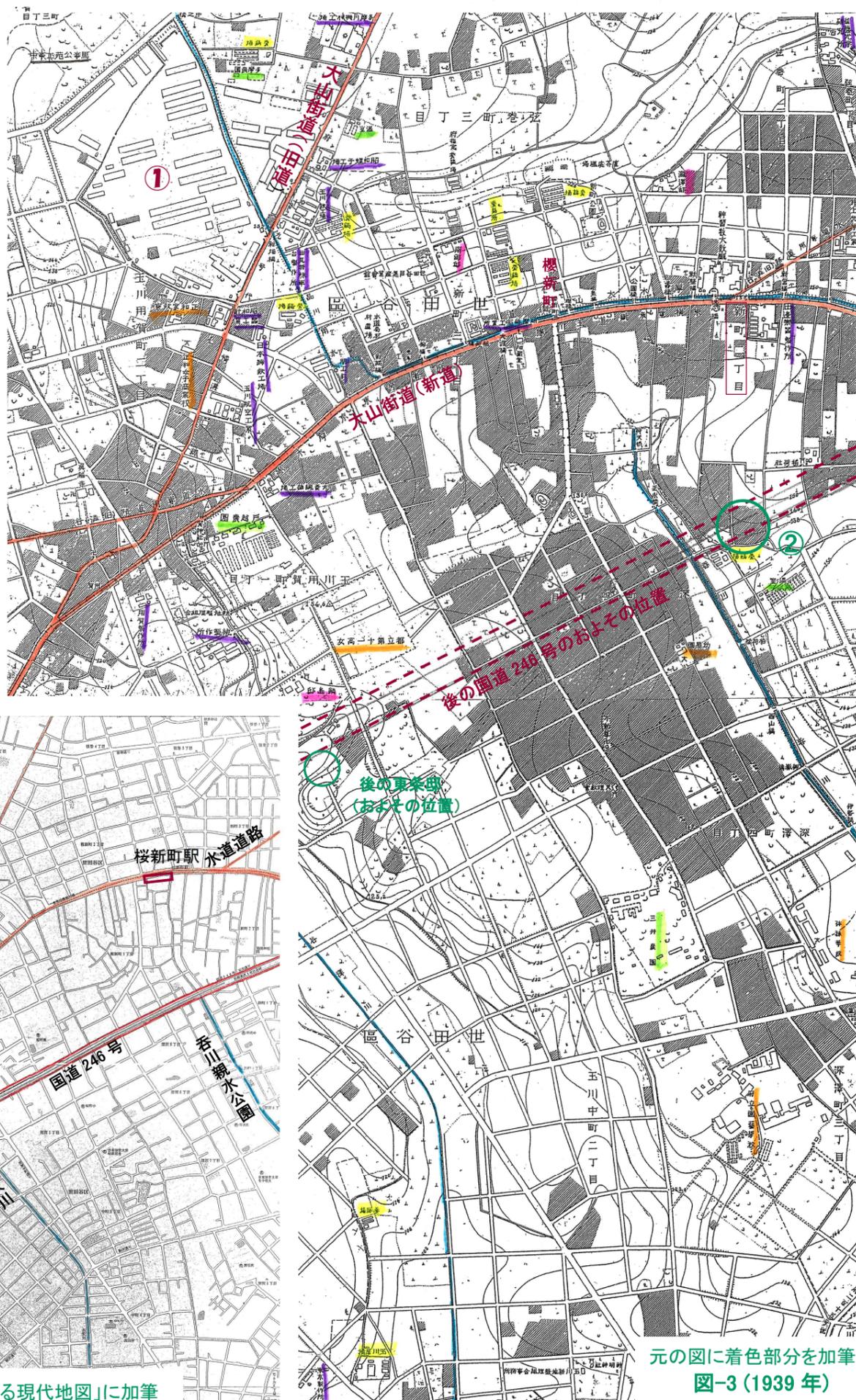


図-4 「対応する現代地図」に加筆

等高線の数字の単位は尺

教育施設 工場等 農園・温室 養鶏場・養豚場・屠場 邸宅



元の図に着色部分を加筆 図-3 (1939年)

## 新町に住んだ木彫家具製作者林二郎

前41号でご紹介した林二郎（1895-1996）について「二郎の姉が僕の祖母、僕は二郎の最後の弟子です。」という服部俊之さんのお話と『ペザント・アートへ 木工生活八十年』（林二郎、1989.12.10、住まいの図書館出版局）からご紹介します。

林二郎は、銀座にあった林家旅館に生まれました。東京美術学校（現在の東京芸術大学）の日本画科入学後、京都で竹内栖鳳に師事しました。その頃、イギリスの雑誌でペザント・アートを知り、真似して椅子を作ったりし始めました。その後、体調を崩したので養生をかねて1921年、新町に土地1,000坪を借り、自分の手で小屋を建て、園芸を始めました。ソローの『森の生活』の影響を受けてのことだそうです。1928年からはここに住み本格的に木彫家具製作を始めます。1933年には両親も隣に住むようになりましたが、1940年、両親の家を志賀直哉（1883-1971）に譲ります。志賀が1948年に熱海に移住するまで、志賀宅には多くの文学関係者が集い、近くに住んだ洋画家緑川廣太郎（1904-1983）、英文学者・天文民俗学者野尻抱影（1883-1977）たちと交流がありました。林二郎宅も客の多い志賀宅の控室のようだったと書かれています。

林二郎は、1945年に多摩の檜原村の民家を用賀に移築して住み、以後、用賀で製作を続けます。作品の中には、首相官邸のテーブル、向井潤吉記念館のベンチチェストがあるそうです。1995年には世田谷美術館で「林二郎100歳記念展」が開催されました。

服部俊之さんは、映像関係の仕事をした後、木工家具職人として働いていましたが、二郎が95歳のときに「職人がやめてしまって手が足りない。」と誘われ、以後7年間、二郎の最後の弟子となりました。二郎の没後、新町の自宅に家具工房服部木工所を設け注文家具を製作しつつ、木工教室を開かれています。



図-5 新町に自分で建てた小屋 左の図3中の②辺りが林二郎の土地

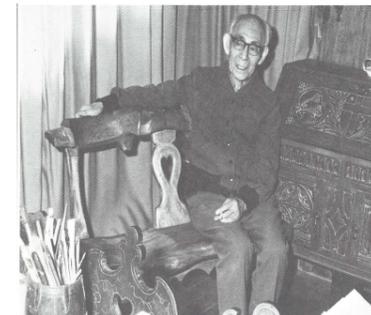


図-6 スペイン式ベンチ 1977年（林二郎の右は、チェスト 当会付記）



図-5、図-6:『ペザント・アートへ 木工生活八十年』から許諾を得て掲載します。